

【 資料－3 】

- ・ 庵原川水系河川整備計画（原案）について

平成26年3月19日

第3回

庵原川水系・波多打川水系 流域委員会

平成26年 3月19日

静岡県静岡土木事務所

An aerial photograph of a city and its surrounding landscape. In the foreground, there is a large industrial or port area with numerous cylindrical storage tanks and several large buildings. A river flows through the city, with several bridges crossing it. The city is densely packed with residential and commercial buildings. In the background, there are rolling hills and mountains under a cloudy sky. The text is overlaid on the left side of the image.

議事 - 2

庵原川水系河川整備計画（原案） について

河川整備計画（原案）の目次

1.流域及び河川の概要 [P1～13]

- (1) 流域の概要
- (2) 河川の概要

2.河川の現状と課題 [P14～20]

- (1) 治水に関する現状と課題
- (2) 河川の利用及び水利用に関する現状と課題
- (3) 河川環境に関する現状と課題

3.河川整備計画の目標に関する事項 [P21～24]

- (1) 河川整備の基本理念と基本方針
- (2) 河川整備計画の対象区間
- (3) 河川整備計画の対象期間
- (4) 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標
- (5) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
- (6) 河川環境の整備と保全に関する目標
- (7) 河川と地域との関わりに関する目標

4.河川整備の実施に関する事項 [P25～30]

- (1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに
当該河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要
- (2) 河川の維持の目的、種類及び施行の場所
- (3) その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項

1.流域及び河川の概要

【流域の概要】

- 庵原川は、清水区伊佐布の高山に源を発し清水港に注ぐ、流域面積約22km²、幹川流路延長6.7kmの二級河川である。
- 縄文・弥生時代からの遺跡のほか、地域の歴史や文化を伝える仏閣が多く存在するなど、**歴史が古く、文化豊かな流域**である。



1.流域及び河川の概要

地形・地質

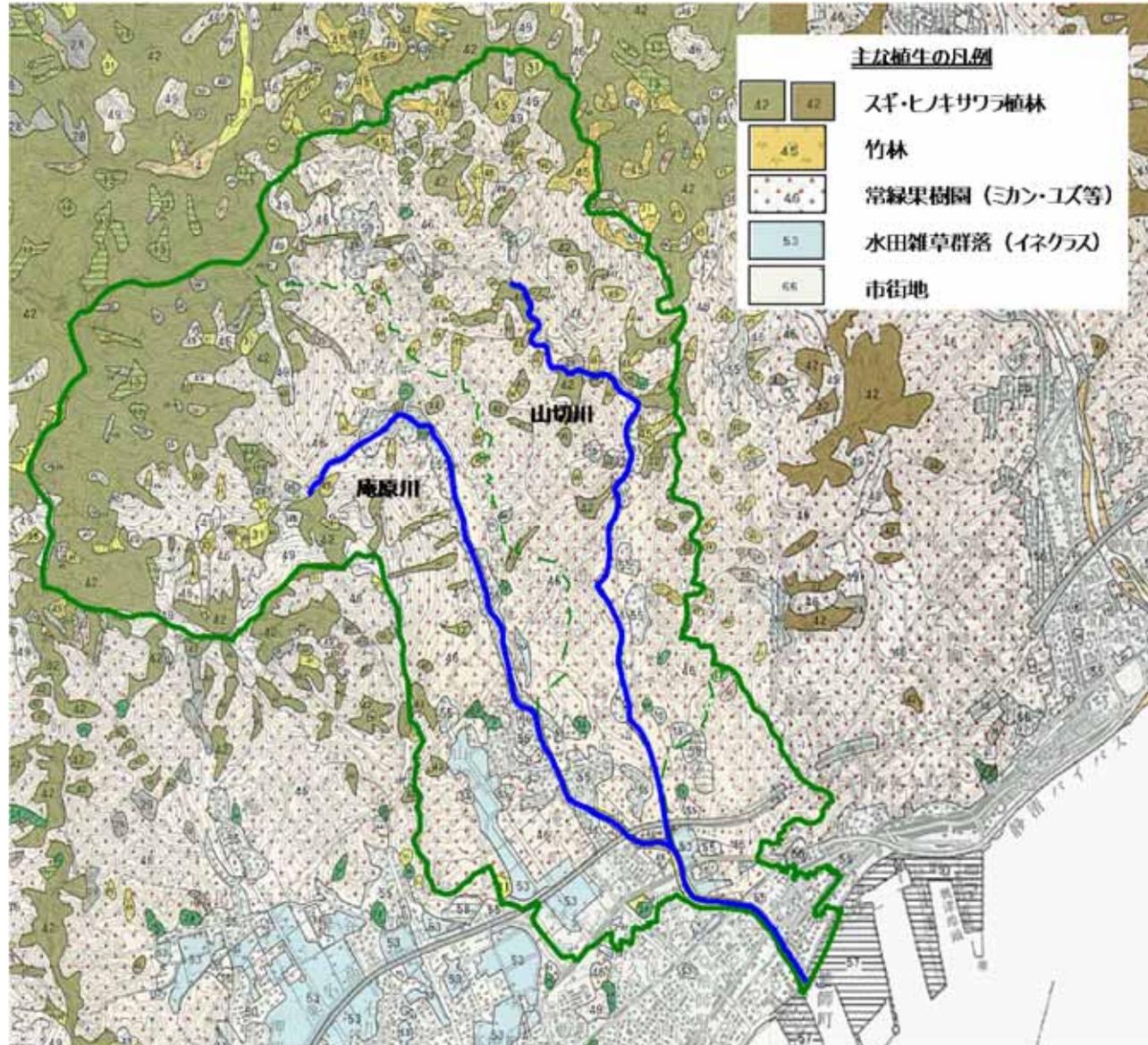
- 地形は、上流域の**庵原山地**と下流域の**清水平野**からなる。
- 上流域の庵原山地はシルト岩、砂岩及び礫岩の各互層が見られる。
- 下流域の清水平野は礫～砂礫質地盤、泥砂礫質地盤、埋立地が広がっている。



1.流域及び河川の概要

植生

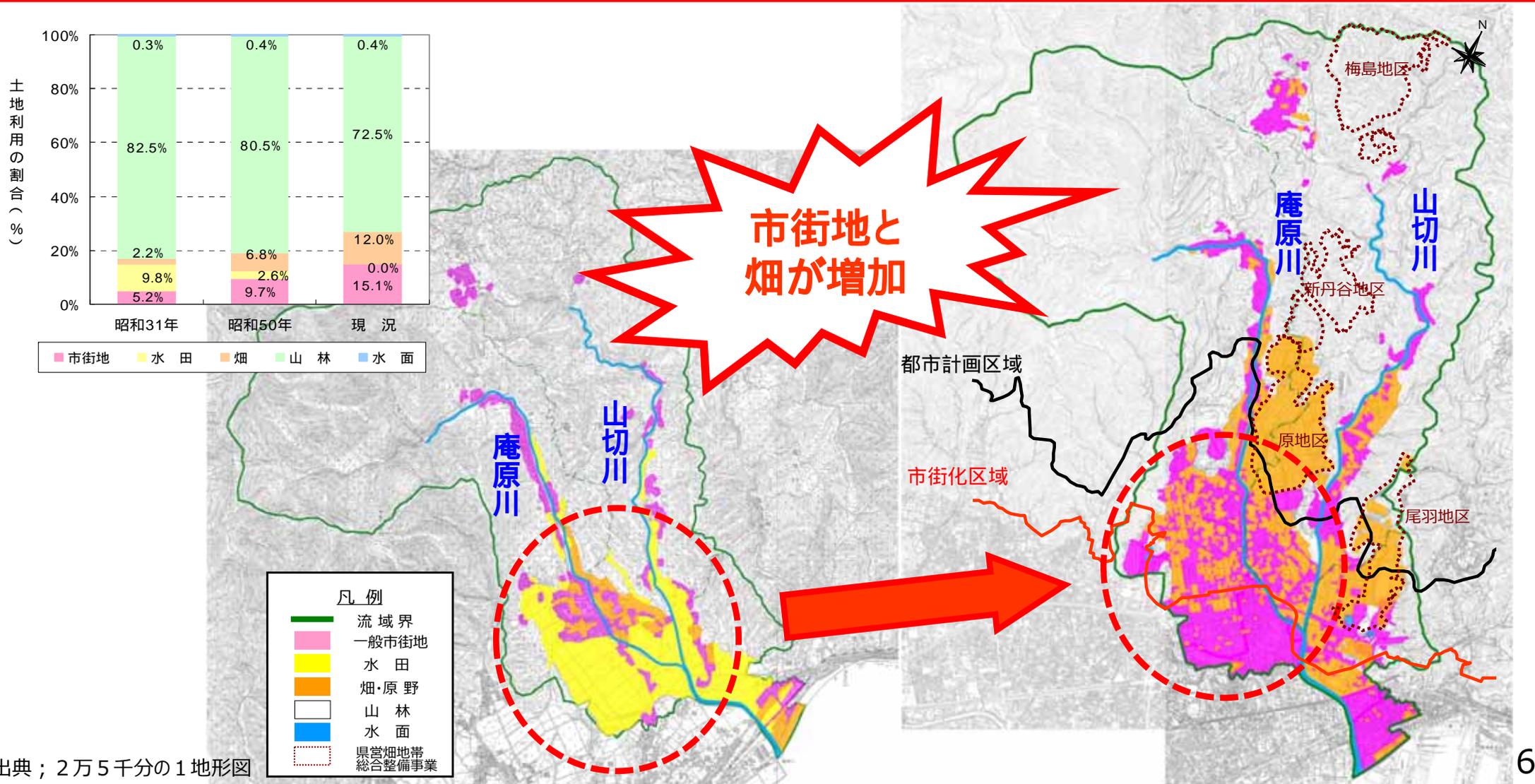
- 植生の大半は常緑果樹園（ミカン・ユズ等）で、スギ・ヒノキサワラ植林、竹林、水田雑草群落など、植林地、耕作地植生がほとんどを占めている。



1.流域及び河川の概要

土地利用

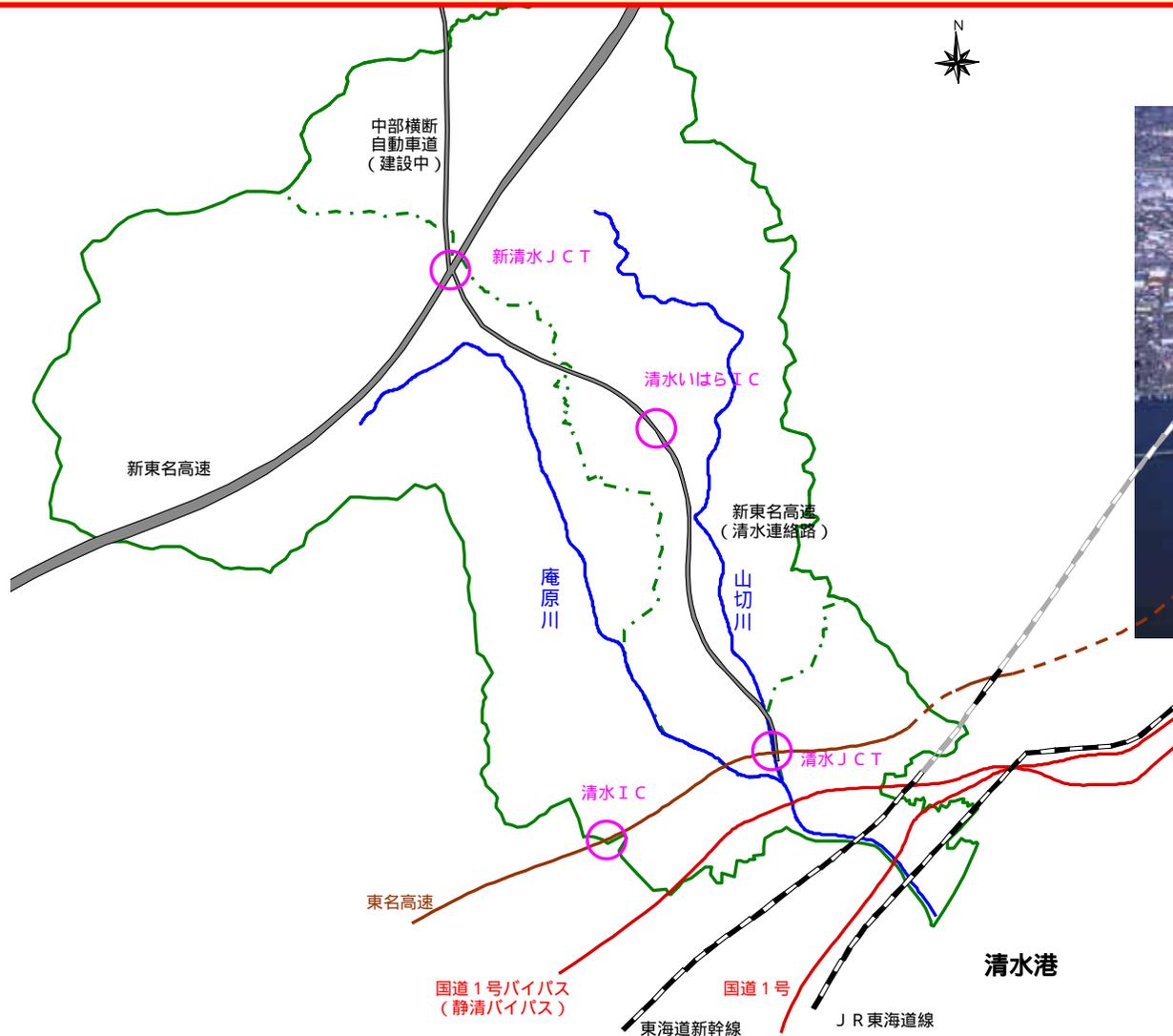
- 昭和30年代から現在にかけて、市街地、畑が増加し、水田、山林は減少している。
- 昭和には「いはらみかん」として全国にその名を広め、現在も上流域の丘陵地では樹園地を対象とした**基盤整備事業（県営畑地帯総合整備事業）**が展開されている。



1.流域及び河川の概要

主要交通

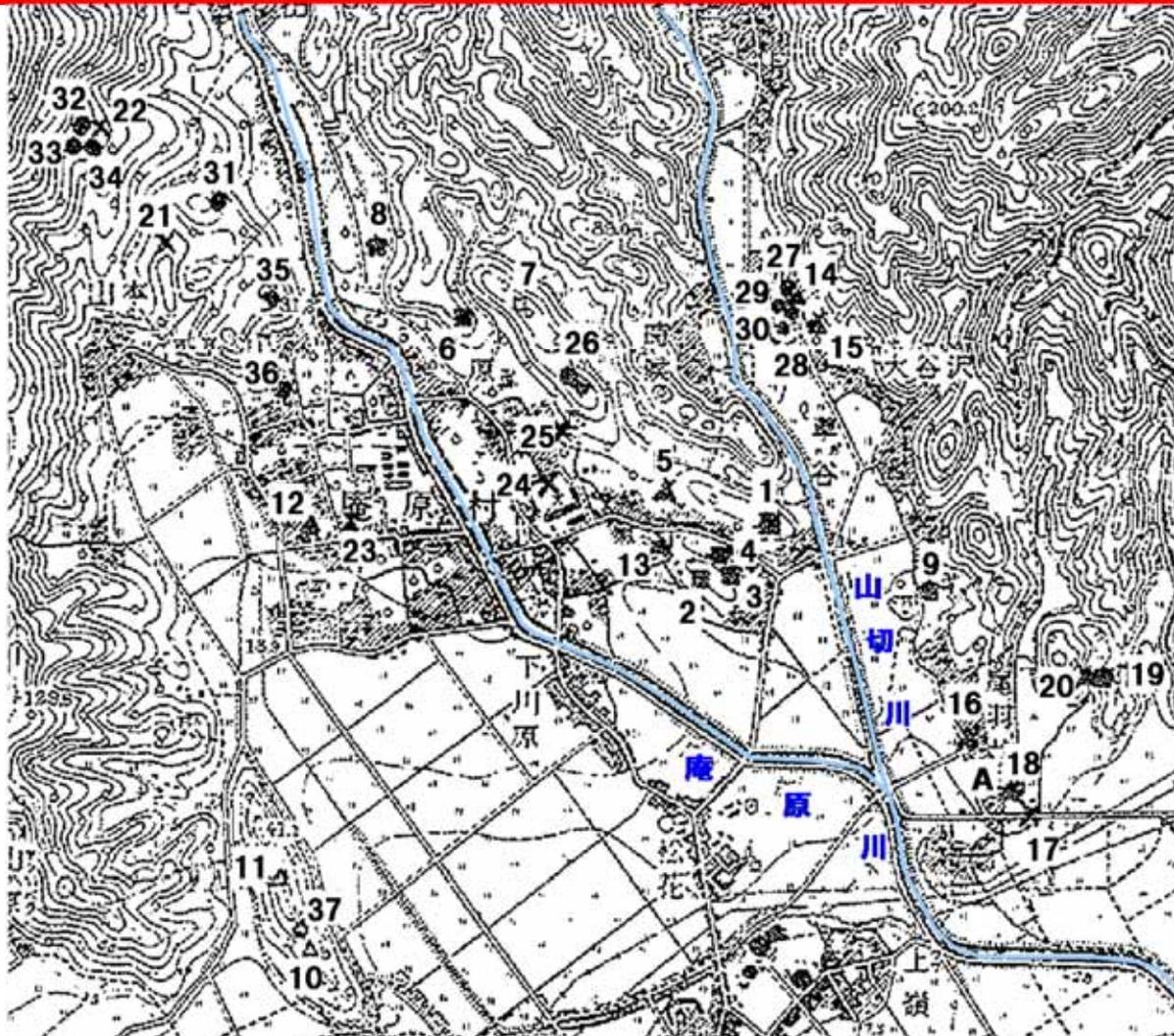
- 東名高速道路、国道 1 号などの重要基幹交通網が下流域の平地部を横断している。
- 交通の利便性向上に伴い、今後も流域の市街化の進展が予想される。
- 河口部の「清水港」は、国内外の貿易拠点として重要な役割を担っている。



1.流域及び河川の概要

歴史・文化

- 海側に面した丘陵地帯には縄文・弥生の時代からの遺跡が多く、駿河国が成立する大化の改新以前には「**廬原国**」（**五百原国**）の**中心地**があったといわれている。
- 古墳時代前期に建立された三池平古墳、真言宗の修行の場として開かれた名勝の伊佐布北滝など、県指定文化財3件、市指定文化財10件の計**13件が文化財に指定**されている。



遺跡番号	遺跡名	時代
1	大乗寺遺跡	縄文 古類
2	高部第1遺跡	縄文 古類
3	高部第2遺跡	縄文
4	寺田遺跡	縄文 古類
5	阪平遺跡	縄文 弥生 古類
6	於成平遺跡	縄文
7	須藤製遺跡	縄文
8	香念寺平遺跡	縄文
9	若宮遺跡	縄文
10	牛王堂第1遺跡	弥生 古類
11	牛王堂第2遺跡	弥生 古類
12	小原敷遺跡	弥生
13	足高遺跡	弥生
14	宮平第1遺跡	弥生 古類
15	宮平第2遺跡	弥生 古類
16	中の平遺跡	弥生 古類
17	寺崎第1遺跡	弥生 古類
18	寺崎第2遺跡	弥生
19	東山田宮跡	古類
20	東山田遺跡	弥生 古類
21	池の尻遺跡	古類
22	栗館平遺跡	古類
23	町屋遺跡	古類
24	庵原中学校庭遺跡	古類
25	孫鹿神社遺跡	古類
26	三池平遺跡	古墳時代前期
27	東久佐奈岐第1号墳 (宮平古墳)	古墳時代後期
28	東久佐奈岐第2号墳	古墳時代後期
29	東久佐奈岐第3号墳	古墳時代後期
30	東久佐奈岐第4号墳	古墳時代後期
31	丸山古墳	古墳時代後期
32	浅間平第1号墳	古墳時代後期
33	浅間平第2号墳	古墳時代後期
34	浅間平第3号墳	古墳時代後期
35	寺山古墳	古墳時代後期
36	大門古墳	古墳時代後期
37	牛王堂山古墳	古墳時代後期
A	庵原鹿寺跡	白鳳あるいは奈良

(時代につけた下線はその遺跡の主体を示す)



出典；一村一家、静岡市HP

1.流域及び河川の概要

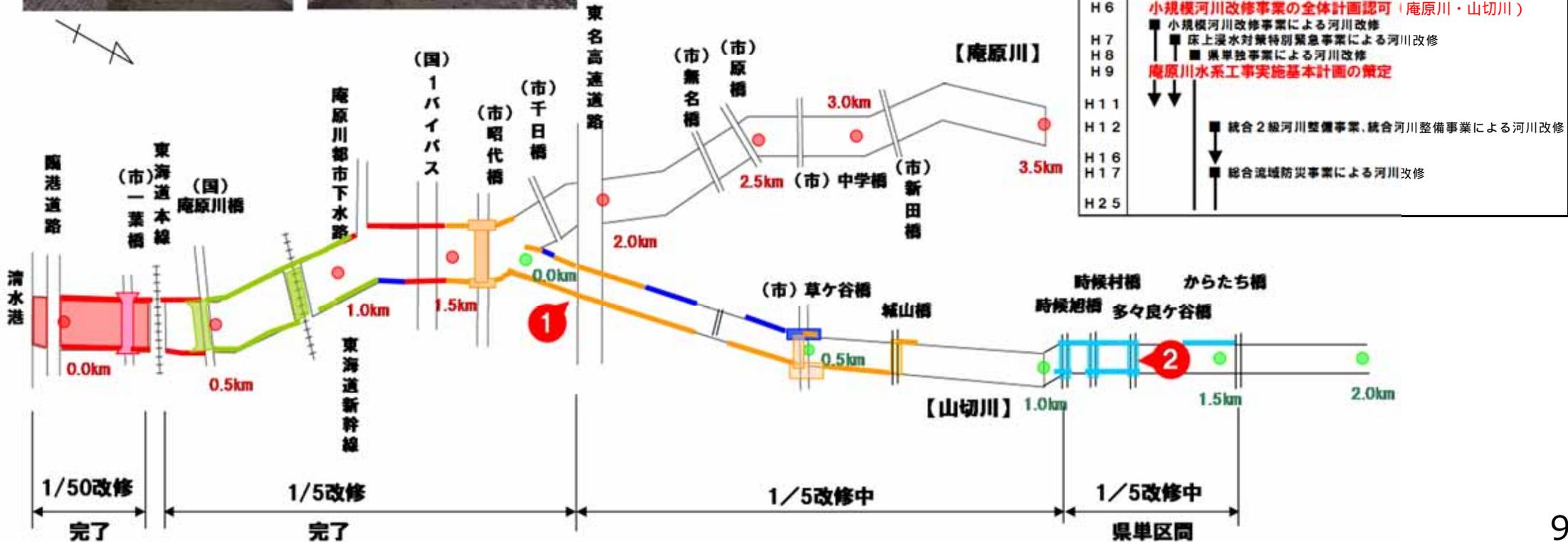
治水事業の沿革

- 昭和23年9月のアイオン台風による出水を契機に中小河川改修事業に着手し、昭和28年度に一次改修が完了した。
- 近年では、平成2年8月洪水を契機に、平成6年より小規模河川改修事業に着手、その後も床上浸水対策特別緊急事業、総合流域防災事業等による改修を鋭意進めている。



- 小規模河川改修事業
- 統合2級河川整備事業、統合河川整備事業
- 総合流域防災事業
- 床上浸水対策特別緊急事業
- 県単独事業

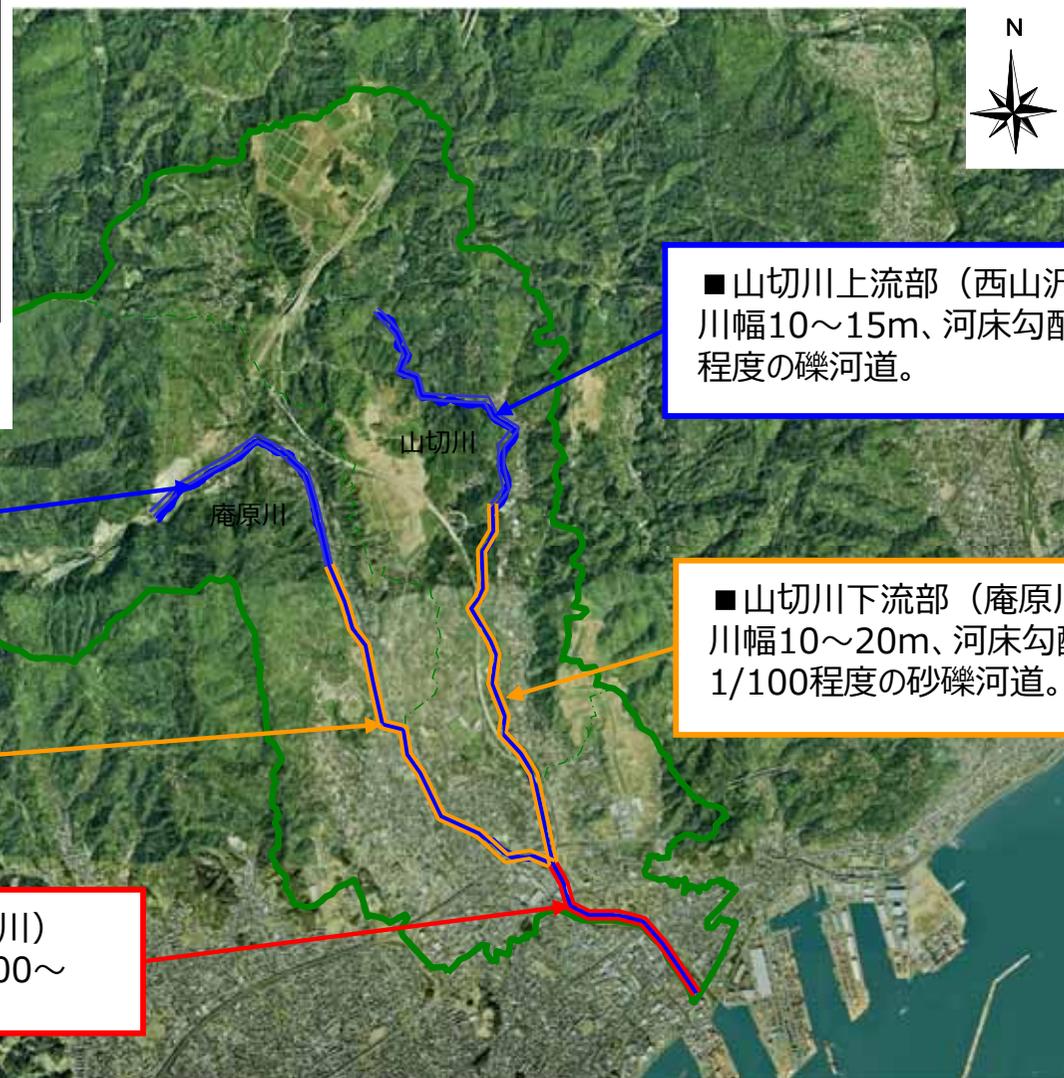
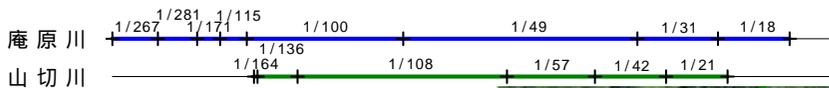
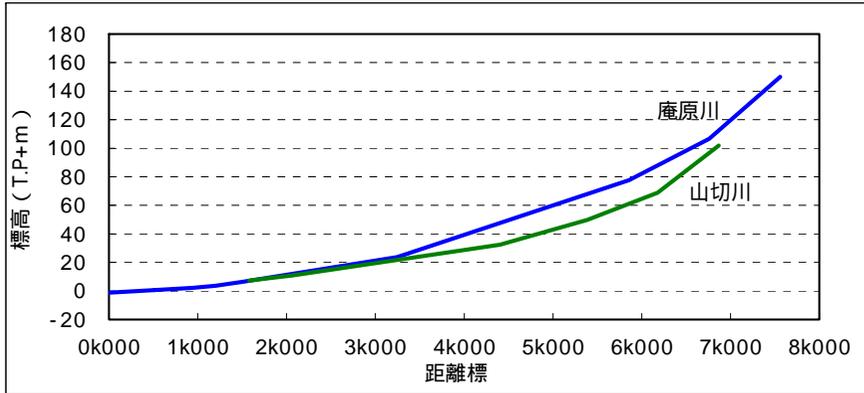
年代	治水の概要
S 23	アイオン台風による甚大な被害発生 ■ 庵原川：中小河川改修事業による一次改修
S 28	↓
S 35	■ 山切川：局部改良事業による一次改修
S 38	↓
H 2	台風11号で越水し、庵原川・山切川で被害発生
H 6	小規模河川改修事業の全体計画認可（庵原川・山切川） ■ 小規模河川改修事業による河川改修
H 7	■ 床上浸水対策特別緊急事業による河川改修
H 8	■ 県単独事業による河川改修
H 9	庵原川水系工事実施基本計画の策定
H 11	↓ ↓
H 12	■ 統合2級河川整備事業、統合河川整備事業による河川改修
H 16	
H 17	■ 総合流域防災事業による河川改修
H 25	



1.流域及び河川の概要

【河川の概要】

- 上流の山間地区間は、河川勾配が約1/50の掘込河川である。
- 下流の扇状性の低地区間（支川の山切川合流後）は、河川勾配が約1/200の築堤河川である。



■ 山切川上流部（西山沢～起点）
川幅10～15m、河床勾配1/80～1/20
程度の礫河道。

■ 庵原川上流部（雀田沢～起点）
川幅10～20m、河床勾配1/60～1/40
程度の礫河道。

■ 山切川下流部（庵原川～西山沢）
川幅10～20m、河床勾配1/160～
1/100程度の砂礫河道。

■ 庵原川中流部（山切川～雀田沢）
川幅15～20m、河床勾配1/100程度
の砂礫河道。

■ 庵原川下流部（河口～山切川）
川幅30～90m、河床勾配1/500～
1/180程度の砂礫河道。

1.流域及び河川の概要

【庵原川上流部】

- ✓山付け部を除くほぼ全区間で護岸が施工されている。
- ✓天然河岸となっている区間では樹木がせり出している。

一次改修済の上流部の状況



庵原川：5.4km付近

樹木がせり出している様子



庵原川：6.8km付近

【庵原川中流部】

- ✓県単独事業等により一次改修が実施され、全区間にわたって護岸が施工されている。
- ✓沿川には清水庵原小学校や清水庵原中学校、清水原保育園などがあり、環境学習、地域活動の場として利用されている。
- ✓三池平古墳、大乘寺、一乗寺などの歴史的建造物をめぐる「いほはらの路」として、川沿いの一部区間が散策路に位置づけられている。

川の中に容易に降りられる中流部の状況



庵原川：原橋下流

環境学習として利用される場



庵原川：いほはら橋上流

1.流域及び河川の概要

【庵原川中流部】

- ✓清水原保育園～清水原小学校付近では、年によっては降水量の少ない冬場に瀬涸れが生じる箇所がある。
- ✓河道沿いに家屋が立ち並ぶ区間（庵原郵便局より上流）が見られる。

瀬涸れの様子



庵原川：原橋上流（2013年5月撮影）

河道沿いに立ち並ぶ民家



庵原川：中学橋上流

【庵原川下流部】

- ✓小規模河川改修事業、床上浸水対策特別緊急事業等により改修が実施され、JR東海道線を除く全区間にわたって、一定の治水安全度を有している。
- ✓築堤区間には遊歩道や、親水整備が行われ、市民の憩いの場として利用されている。

JR東海道線付近の親水整備の状況



庵原川：JR橋梁上流

遊歩道整備された改修済区間の状況



庵原川：神明川合流点下流

1.流域及び河川の概要

【山切川上流部】

- ✓山付け部を除くほぼ全区間で護岸が施工されている。
- ✓天然河岸となっている区間では樹木がせり出している。
- ✓4.2km付近より上流は両岸に山が接近して渓谷の様相を成している。

一次改修済の上流部の状況



山切川：4.0km付近

渓谷のような山切川の様子



山切川：5.3km付近

【山切川下流部】

- ✓平成14年度から、統合2級河川整備事業、総合流域防災事業等が実施されている。
- ✓時候村橋付近では環境に配慮した護岸を施工している。
- ✓地域と行政が連携して計画、設計した「山切公園グランド」など、地元住民の川に対する高い意識が窺える。

再改修が行われた区間の様子



山切川：東名上流

時候村橋付近の環境護岸



山切川：時候村橋上流

2.河川の現状と課題

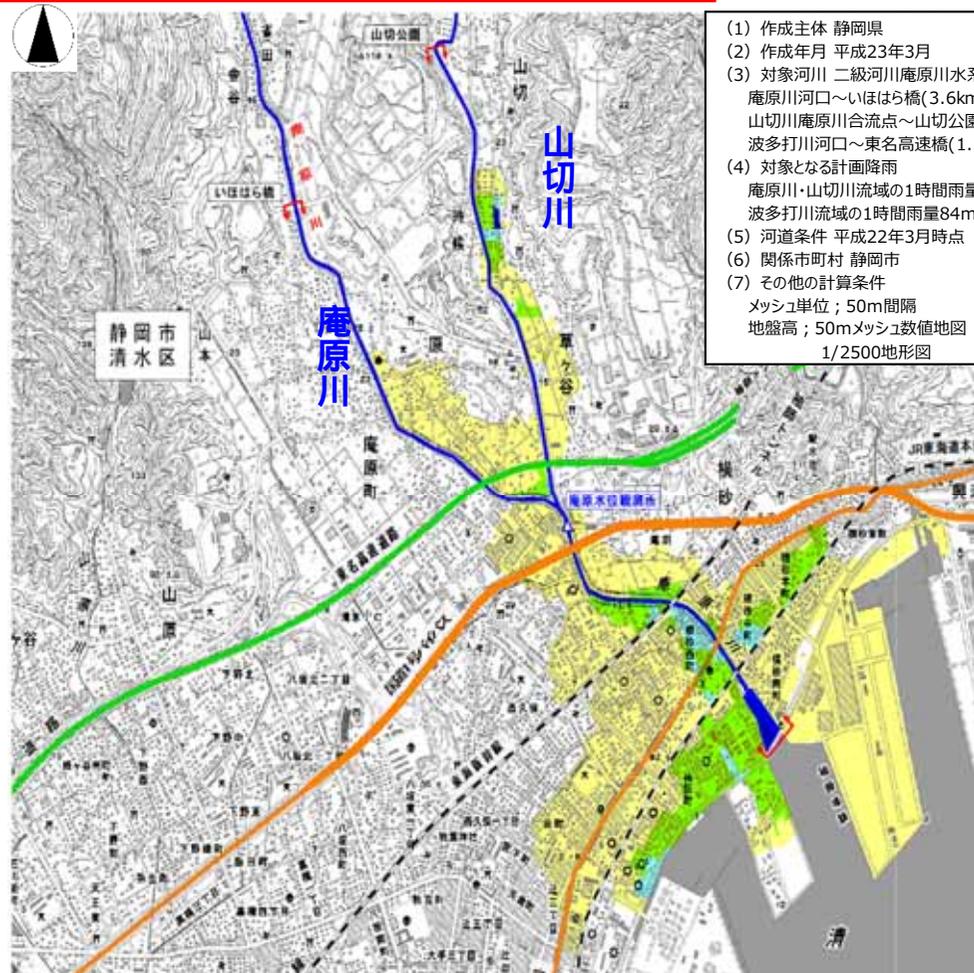
【治水に関する現状と課題】

【現状】

- 平成2年8月の台風11号を契機に、平成6年から整備を進めているが、依然として治水安全度の低い箇所がある。
- 下流域には重要基幹交通網が横断しており、自然災害の発生による交通遮断は社会的影響が大きくなる。
- 人口や資産が集積している下流域や清水区の市街地まで氾濫流が広がることが予測される。

【課題】

- 地域の特徴を考慮した治水施設の着実な整備、及び適切な維持管理を推進する必要がある。



- (1) 作成主体 静岡県
- (2) 作成年月 平成23年3月
- (3) 対象河川 二級河川庵原川水系、波多打川水系
庵原川河口～いほはら橋(3.6km)まで
山切川庵原川合流点～山切公園(2.0km)まで
波多打川河口～東名高速橋(1.5km)まで
- (4) 対象となる計画降雨
庵原川・山切川流域の1時間雨量91mm(概ね50年に1回程度の降雨)
波多打川流域の1時間雨量84mm(概ね30年に1回程度の降雨)
- (5) 河道条件 平成22年3月時点
- (6) 関係市町村 静岡市
- (7) その他の計算条件
メッシュ単位; 50m間隔
地盤高; 50mメッシュ数値地図(平成7年国土地理院発行)
1/2500地形図

凡 例	
	浸水した場合に想定される水深(ランク別)
	0.5m未満の区域
	0.5～1.0m未満の区域
	1.0～2.0m未満の区域
	2.0～5.0m未満の区域
	5.0m以上の区域
	浸水想定区域の指定の対象となる水位周知河川

2.河川の現状と課題

【治水に関する現状と課題】

【現状】

- 新東名高速道路関連の整備により、今後の流域内の都市化に伴う流出量の増加が懸念される。
- 樹園地を対象とした基盤整備事業（県営畑地帯総合整備事業）が展開され、保水機能を有する山林が減少しつつある。
- 人口減少や第1次産業人口の減少などに起因して、山林の荒廃による保水力の低下が懸念される。

【課題】

- 他機関との連携による流域が一体となった総合的な治水対策を推進する必要がある。



2.河川の現状と課題

【治水に関する現状と課題】

【現状】

- 「計画津波」に対して整備される海岸堤防とのすり付けが必要となる区間がある。

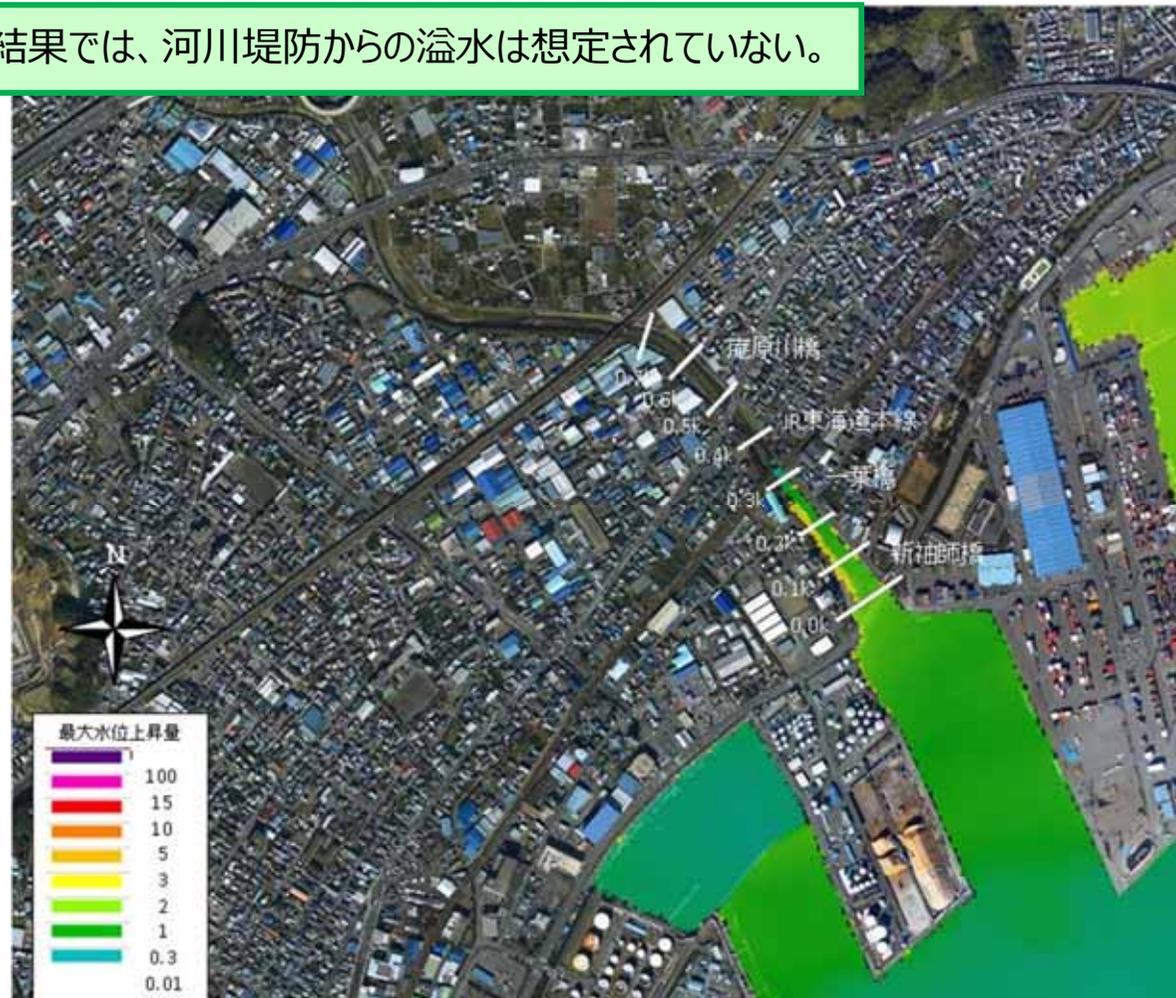
地域海岸名	最大津波高となる対象地震	設計津波の水位	津波に対する必要堤防高
24.清水	想定東海地震	4.0m	4.0m

【課題】

- 地震・津波対策として堤防を嵩上げする必要がある。



津波遡上シミュレーション結果では、河川堤防からの溢水は想定されていない。



2.河川の現状と課題

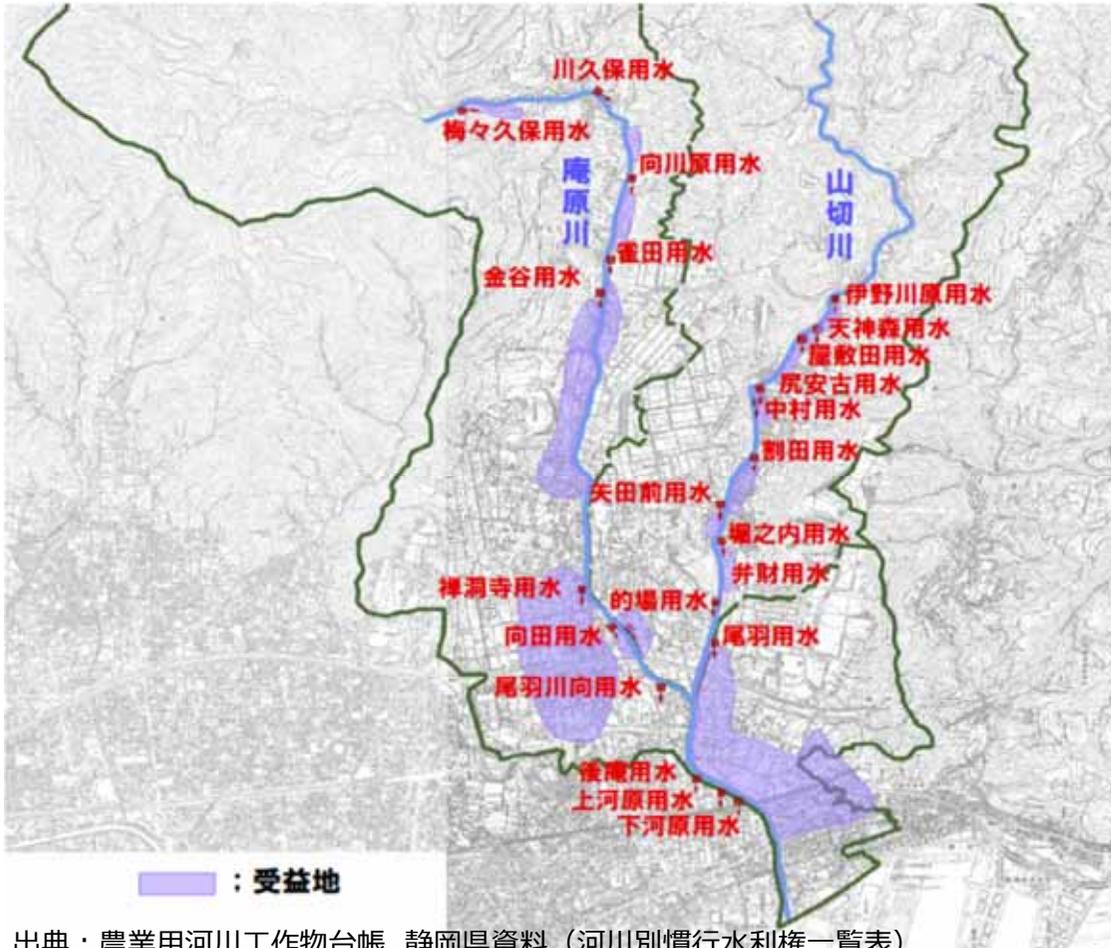
【河川の利用及び水利用に関する現状と課題－河川水の利用】

【現状】

- 庵原川及び支川山切川の表流水は主に農業用水として、約187haに及ぶ農地のかんがいに利用されている。その他、上水、工業用水としての河川水の利用はない。
- 継続的な流量観測が行われておらず、流況把握は困難である。
- 年によっては、一部区間で降水量の少ない冬場に瀬涸れが生じることもあるが、渇水被害は報告されていない。

【課題】

- 流水の適正かつ合理的な利用、良好な水環境の維持・回復を図り、**水利用に支障をきたさないよう努める必要がある。**



河川名	位置	取水口名	分類	受益面積 (ha)	期 別	目的	水利使用者
庵原川	0.85 R	下河原用水	慣行	3.0	4/下~9/下	農水	横砂自治会
	1.00 R	上河原用水	"	2.0	4/下~9/下	"	袖師自治会
	1.10 R	後庵原用水	"	3.0	4/下~9/下	"	袖師自治会
	1.80 R	尾羽川向用水	"	4.0	4/20~9/20	"	庵原水利組合
	2.20 L	的場用水	"	4.0	4/20~9/20	畑作、農水	原自治会
	2.20 R	向田用水	"	3.0	4/20~9/20	"	原自治会
	2.55 R	禪洞寺用水	"	50.0	4/20~9/20	農水	庵原水利組合
	4.45 R	金谷用水	"	80.0	4/20~9/20	"	庵原水利組合
	4.65 L	雀田用水	"	2.0	4/20~9/20	"	原自治会
	5.18 L	向川原用水	"	1.0	4/20~9/20	みかん防除、農水	伊佐布自治会
	5.78 L	川久保用水	"	1.0	4/20~9/20	畑作、農水	伊佐布自治会
6.55 R	梅々久保用水	"	1.5	4/20~9/20	"	伊佐布自治会	
山切川	0.35 L	尾羽用水	慣行	10.0	4/20~9/20	防火、農水	尾羽自治会
	0.55 R	弁財用水	"	4.0	4/20~9/20	"	草々谷自治会
	1.02 L	堀之内用水	"	4.0	4/20~9/20	農水	草々谷自治会
	1.25 R	矢田前用水	"	1.0	4/20~9/20	"	山切自治会
	1.60 L	割田用水	"	6.0	4/20~9/20	"	山切自治会
	1.92 L	中村用水	"	2.0	4/20~9/20	"	山切自治会
	2.05 L	尻安古用水	"	2.0	4/20~9/20	"	山切自治会
	2.51 L	屋敷田用水	"	1.7	4/20~9/20	"	山切自治会
	2.60 L	天神森用水	"	1.0	4/20~9/20	"	山切自治会
	2.79 L	伊野川原用水	"	1.0	4/20~9/20	"	山切自治会
計				187.2			



庵原川：2.3km付近下流

2.河川の現状と課題

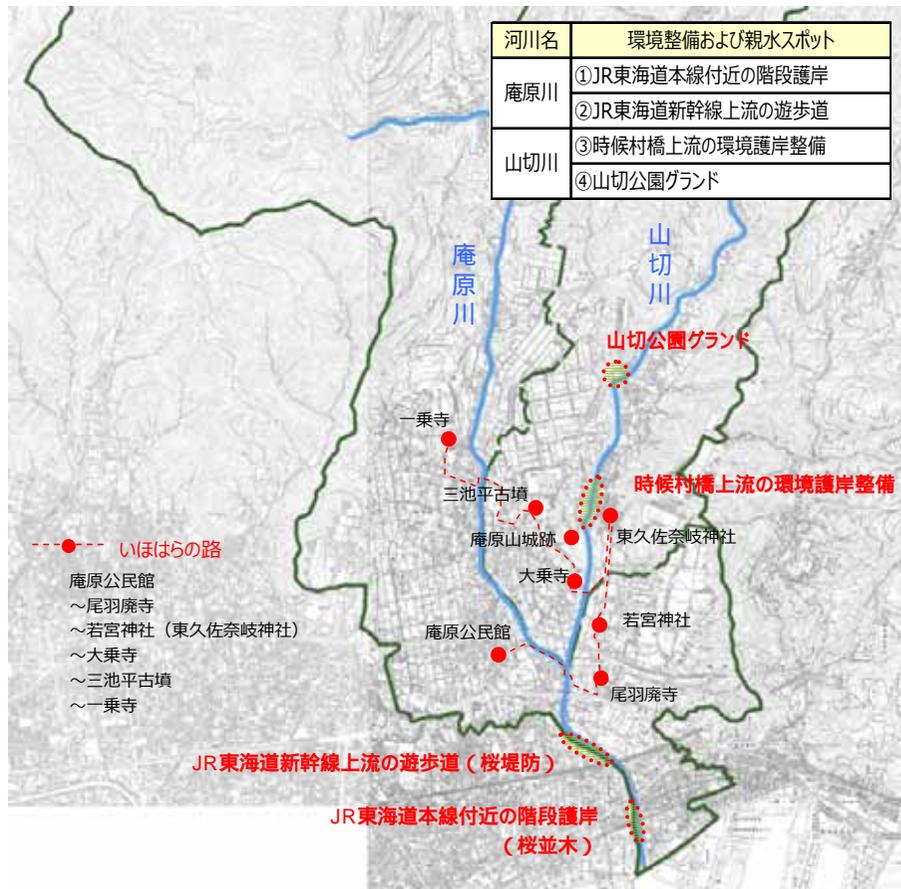
【河川の利用及び水利用に関する現状と課題－河川空間の利用】

【現状】

- 桜並木を活かした遊歩道や「いほはらの路」など、多くの住民が花見や散策などを楽しんでいる。
- 地元住民や市民活動団体の協働により、各種イベント、河川愛護、環境保全活動、「山切公園グランド」を利用した環境学習の場など、広く活用されている。
- 約7割の人は河川愛護活動や環境保全活動に参加したことがあり、河川での地域密着型の取組が行われている。

【課題】

- 今後も地域の活発な河川愛護活動や環境学習を支援し、この地域の個性を活かした川づくりを進めていく必要がある。



桜堤防の様子（袖師地区）



お日待ち・灯ろう祭（杉山地区）



川施餓鬼（伊佐布地区）



清水庵原中の庵原川清掃の様子



環境学習の様子（原地区）



環境学習の様子（山切公園グランド）



出典；きょうの清水、静岡新聞、清水庵原中学校ホームページ

2.河川の現状と課題

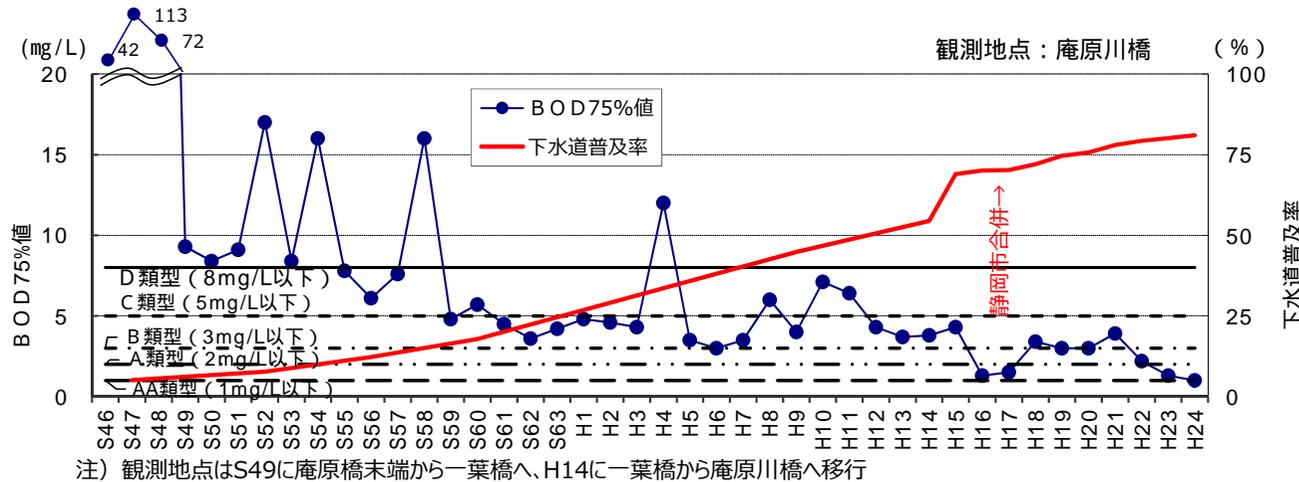
【河川環境に関する現状と課題 -水質】

【現状】

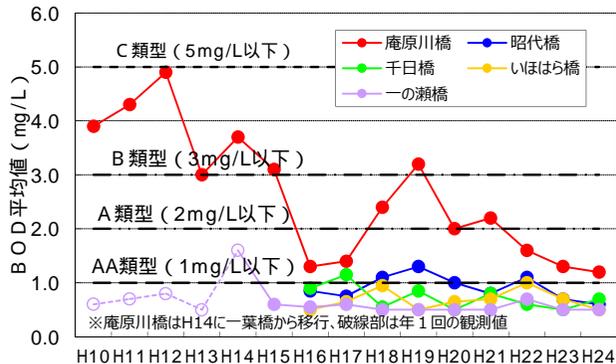
- 庵原川橋地点の水質は、昭和49年以降、下水道の普及とともに徐々に改善されている。
- 平成16年以降のBOD年平均値は概ね3.0mg/ℓ以下で推移しており、比較的良好な状況である。
- 約4割の人は水が「よごれている」、あるいは「どちらかといえばよごれている」と感じている。

【課題】

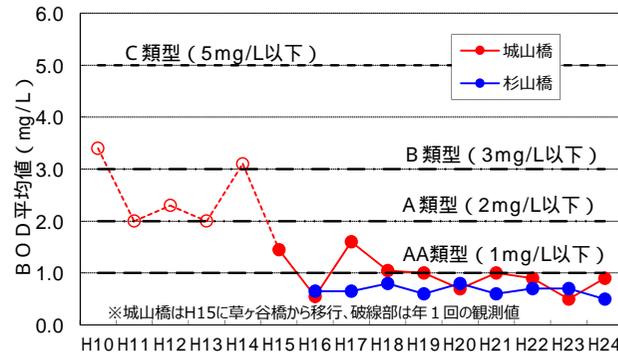
- 水環境の保全・改善に努めることが求められている。



【庵原川】



【山切川】



2.河川の現状と課題

【河川環境に関する現状と課題 －動植物の生息・生育状況】

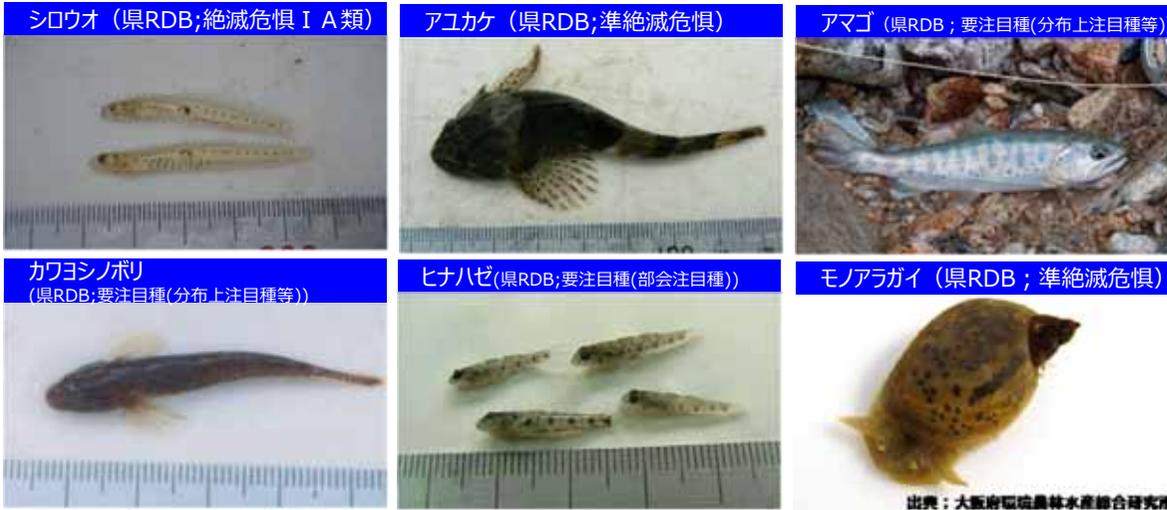
【現状】

- 箇所ごとの状況に応じた多様な動植物の生息・生育・繁殖環境が形成されている。
- 庵原川は、シロウオが遡上・営巣し、産卵する数少ない河川の一つとなっている。
- コンクリート護岸の整備や落差工など、魚類等生息生物の移動等が制限されている箇所が見受けられる。

【課題】

- 動植物の生息・生育・繁殖環境へ配慮する必要がある。
- 河川上下流の連続性など、自然環境への配慮が求められる。

注目する必要がある種（重要種）



区分		分類群	科名	和名	学名	全 域	庵 原 川	山 切 川
中部	県							
	NT	哺乳類	リス	ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	○	-	-
	NT	両生類	アマガエル	カシカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	●	●	○
	NT	鳥類	チドリ	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus japonicus</i>	●	-	●
☆	N-II	魚介類	コイ	タカハヤ	<i>Phoxinus oxycephalus jouyi</i>	●	●	●
☆	N-II	魚介類	ドジョウ	シマドジョウ	<i>Cottitis biwae</i>	●	●	●
N-II/★	N-II	NT	魚介類	サケ	アマゴ	●	●	●
N-III	N-III	魚介類	ヨウジウオ	カワヨウジ	<i>Hippichthys spicifer</i>	●	●	-
NT	NT	VU	魚介類	カジカ	アユカケ (カマキリ)	●	●	-
N-III	N-III		魚介類	ハゼ	カワアナゴ	●	●	-
CR	CR	VU	魚介類	ハゼ	シロウオ	●	●	-
N-III	N-III		魚介類	ハゼ	ヒナハゼ	●	●	-
N-II	N-II		魚介類	ハゼ	カワヨシノボリ	○	-	-
	NT	NT	魚介類	モノアラガイ	モノアラガイ	●	●	-

※ ●：法河川区間で確認、○：流域内で確認
 注) 区分は環境庁版レッドリストおよび静岡県RDBによる
 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧
 N-I：要注目種(現状不明) N-II：要注目種(分布上注目種等) N-III：要注目種(部会注目種) DD：情報不足
 ☆：分布・生息状況からみて普通種と判断されるもの ★：地域全体が移入 /★：天然分布区域への移入あり

注意する必要がある種（外来生物）



区分	分類群	科名	和名	学名	全 域	庵 原 川	山 切 川
要注意外来生物	魚介類	カダヤシ	グッピー	<i>Poecilia reticulata</i>	○	○	-
要注意外来生物	魚介類	ザリガニ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	○	○	○
要注意外来生物	植生	アブラナ	オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>	○	-	○
特定外来生物	植生	ウリ	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	○	-	○
要注意外来生物	植生	キク	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i>	○	-	○
要注意外来生物	植生	キク	ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>	○	○	-
要注意外来生物	植生	キク	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	○	-	○
要注意外来生物	植生	トチカガミ	コカナダモ	<i>Elodea nuttallii</i>	○	-	○

河川上下流の連続性の状況



3.河川整備計画の目標に関する事項

【河川整備の基本理念と基本方針】

< 基本理念 >

高速道路網の整備や大規模な開発などに伴い、今後も流域の開発が予想されるが、これまで流域で育まれてきた「**廬原国**」の**歴史や文化**を後世に引き継いでいくため、次の事項に特に配慮し、**治水・利用・環境が調和した河川整備**を行う。

安全で安心して暮らせる川づくり

想定される降雨に対し、**洪水を安全に流下させる**ため、治水施設の着実な整備及び適正な維持管理に努めるとともに、河川管理の視点から適正な土地利用や森林管理、土砂災害対策など他機関と連携し、**流域が一体となった総合的な治水対策**を推進する。

大規模地震による津波に対しては、施設整備はもとより、**ハード・ソフト対策を総合的に組み合わせた多重防御**による防災対策を推進する。

また、**災害による人的被害を軽減**するため、より詳細な防災情報の提供を行うとともに、地域との連携により防災体制の強化に努めるなど、**地域防災力の向上**を目指し、**流域住民が「安全で安心して暮らせる川づくり」に努める**。

自然・文化豊かな地域の暮らしを育む川づくり

現況で見られる多様な自然環境や庵原川が本来有していた**自然環境の保全・再生**に努めるとともに、周辺の**歴史・文化との調和**を図りながら、人が川とふれあうことのできる**身近な水辺空間の創出**に努める。さらに、地域の活発な河川愛護活動や環境学習を支援するなど、**地域住民とともに「自然・文化豊かな地域の暮らしを育む川づくり」を目指す**。

【河川整備計画の対象区間】

- 庵原川水系の**県管理区間**とする。

【河川整備計画の対象期間】

- 概ね**20年間**とする。
- ※計画対象期間内であっても必要に応じて適宜見直しを行う。

3.河川整備計画の目標に関する事項

【洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標】

- 洪水対策は、流域内の人口や資産などの重要度、過去の水害の発生状況やその後の河川整備の状況を踏まえて河川工事を行う。
- 地震・津波対策は、想定東海地震津波（計画津波）が越流しないことを目標に整備する。

洪水、高潮対策

- 近年最大の被害を受けた平成2年8月洪水の降雨規模（時間雨量評価で4年確率相当）
- 上下流および県内河川との整備バランス（5年確率相当）
- 氾濫シミュレーションによる整備効果
- 新東名高速道路関連事業等による市街化の進展



年超過確率1/5規模の降雨（時間雨量61.6mm）による洪水を河道内で安全に流下させることを目標とする。
 人命の安全確保を最優先として、ハード対策とソフト対策の両面から被害軽減に努める。
 常に所定の機能が保たれるよう、適正な土地利用や森林の管理（総合的な治水対策）、河道の適切な維持管理に努める。

近年の浸水実績

異常気象名	要因河川	原因	雨量(mm)		水害区域面積 (ha)			被害家屋棟数 (棟)					
			時間最大	総雨量	農地	宅地・その他	計	全壊	流失	床上	床下	計	
S49.7.7~7.8 七夕豪雨	普通河川	内水 破堤	84.5 (1/30)	221	15.0	36.4	51.4	3	-	325	1079	1407	
S57.9.10~9.13 豪雨と台風18号	山切川 無名河川	内水	48.0 (1/2)	395	0.0	4.2	4.2	-	-	4	13	17	
S58.8.16~17 台風5号	無名河川	内水	44.0	282	0.0	0.1	0.1	-	-	-	1	1	
S58.9.27~28	庵原川 無名河川	内水	50.0 (1/2)	271	0.0	0.6	0.6	-	-	-	12	12	
S62.8.5~8.6 豪雨	無名河川	内水	51.0 (1/2)	217	0.0	0.04	0.04	-	-	-	2	2	
H2.8.9~8.10 台風11号	庵原川 山切川 神明川	無堤部浸水 無堤部浸水 内水	61.0 (1/4)	269	19.1	25.5	44.6	-	-	3	11	61	75
H2.9.30~10.1 台風20号	神明川 堀切沢	内水 無堤部浸水	46.0	134	0.0	1.4	1.4	-	-	-	-	-	
H3.9.12~9.14 台風17号	神明川 堀切沢	内水 無堤部浸水	57.0 (1/3)	258	0.0	1.3	1.3	-	-	-	-	-	
H3.9.18~9.19 台風18号	庵原川 山切川 神明川	内水	34.0	295	18.9	25.5	44.4	-	-	-	-	-	
H4.4.22 大雨	神明川 堀切沢	内水	34.0	95	0.0	1.1	1.1	-	-	-	-	-	
H4.11.20 大雨	神明川	内水	41.0	159	0.0	1.2	1.2	-	-	-	1	1	
H10.9.15~9.16 台風5号	西山田川	内水 無堤部浸水	26.0	193	0.002	0.02	0.02	-	-	-	2	2	
H15.7.3~7.4 梅雨前線豪雨	無名河川	窪地内水	83.0 (1/25)	233	0.000	0.002	0.002	-	-	-	1	1	
H17.7.9 梅雨前線豪雨	無名河川	内水	79.0 (1/20)	133	0.000	0.001	0.001	-	-	-	1	1	

出典：水害統計および静岡市水害統計調査資料（一般資産水害統計調査票ほか）
 雨量は清水気象台の雨量による（印は静岡地方気象台）
 時間最大雨量の（ ）書きは静岡地方気象台の降雨強度式（H13）から推定した洪水規模を示す。

平成2年8月洪水時撮影



- ①H2.8.9~8.10台風11号による浸水区域
- ②H3.9.18~9.19台風18号による浸水区域
- ③H10.9.15~9.16台風5号による浸水区域

3.河川整備計画の目標に関する事項

【洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する目標】（再掲）

- 洪水対策は、流域内の人口や資産などの重要度、過去の水害の発生状況やその後の河川整備の状況を踏まえて河川工事を行う。
- 地震・津波対策は、想定東海地震津波（計画津波）が越流しないことを目標に整備する。

地震・津波対策

- 想定東海地震津波（計画津波）に対して整備される海岸堤防とのすり付けが必要となる区間がある。
- 「計画津波」を上回る「最大クラスの津波」が発生する恐れがある。



想定東海地震津波（計画津波）が越流しないことを目標とする。

減災効果が発現できるよう、河川堤防等の質的整備を目指す。

人命の安全確保を最優先として、河川情報の的確な発信と周知の徹底を行い、被害軽減に努める。

河川堤防の整備イメージ図

河川堤防区間

陸側

川側

河川堤防等の
質的整備

▽計画津波遡上高

施設の
嵩上げ

海岸堤防区間

川側

▽計画津波に対する必要堤防高4.0m

▽計画津波遡上高

施設の
嵩上げ

3.河川整備計画の目標に関する事項

【河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標】

- 地域住民や関係機関と連携を図り、流水の適正かつ合理的な利用が図られるよう努める。
- 河川の流況等の把握に努め、健全な水循環系の構築を目指す。
- 地域住民の身近な水辺空間として、望ましい状態で利活用されるように努める。

【河川環境の整備と保全に関する目標】

- 河道内植生や魚類等水生生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した整備を推進する。
- 関係者が共通の目標を持ちながら、汚濁負荷量のさらなる削減を働きかける。
- 周辺の歴史・文化と調和を図りながら、人が川とふれあうことのできる身近な水辺空間の維持・創出に努める。

【河川と地域との関わりに関する目標】

- 流域の歴史・文化・風土、豊かな自然環境を踏まえ、地域住民や企業など関係機関との協働による河川整備を推進する。
- 防災意識や河川愛護の精神が育まれ受継がれていくよう、地域住民の河川に対する意識向上を図り、地域の活発な取組を支援・継続する。
- 地域防災力の向上や良好な地域のネットワーク、コミュニティの強化を図る。



4. 河川整備の実施に関する事項

【河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要】

河川工事の目的

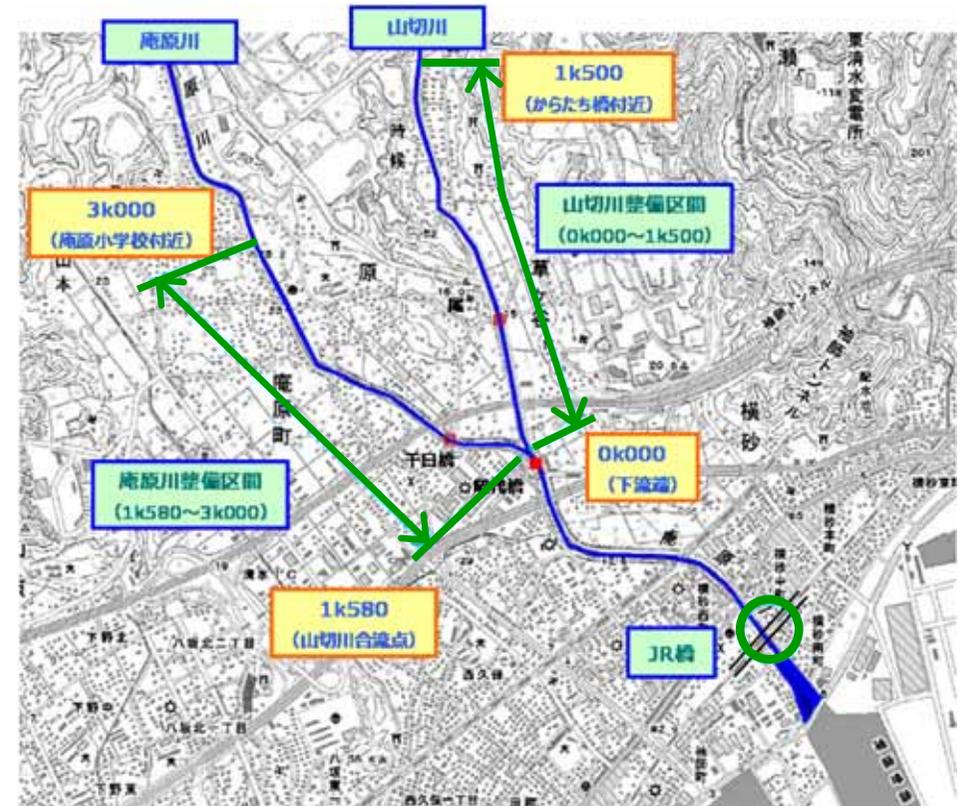
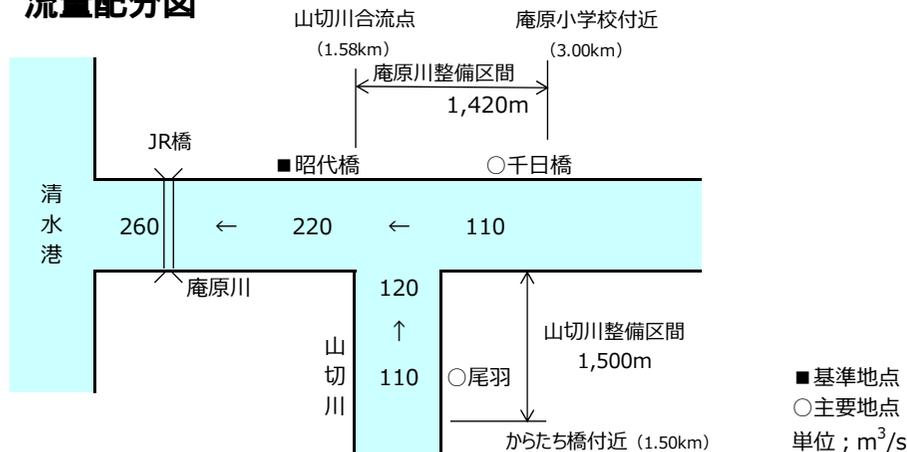
- 河道拡幅及び護岸工、JR橋改築等により必要な河積の確保を図るとともに、堤防嵩上げにより「計画津波」の越流を防ぐ。
- 工事の実施にあたっては、シロウオの遡上・産卵・孵化期に配慮するとともに、必要に応じて有識者の助言を得て、動植物の生息・生育・繁殖環境や景観に配慮した「多自然川づくり」を推進する。
- 誰もが利用しやすい身近な水辺空間の維持・創出に努める。

河川工事の施行場所

- 主要な整備箇所は、年超過確率1/5規模の降雨（時間雨量61.6mm）による洪水を河道内で安全に流下させるため、以下に示すとおりとする。

河川名	区間又は地点	延長	主な整備内容
庵原川	1.58km～3.00km (山切川合流点～清水庵原小学校付近) JR橋	2,920m	<ul style="list-style-type: none"> • 河床掘削 • 河道拡幅 • 護岸整備 • JR橋改築
山切川	0.00km～1.50km (下流端～からたち橋付近)		

流量配分図



4. 河川整備の実施に関する事項

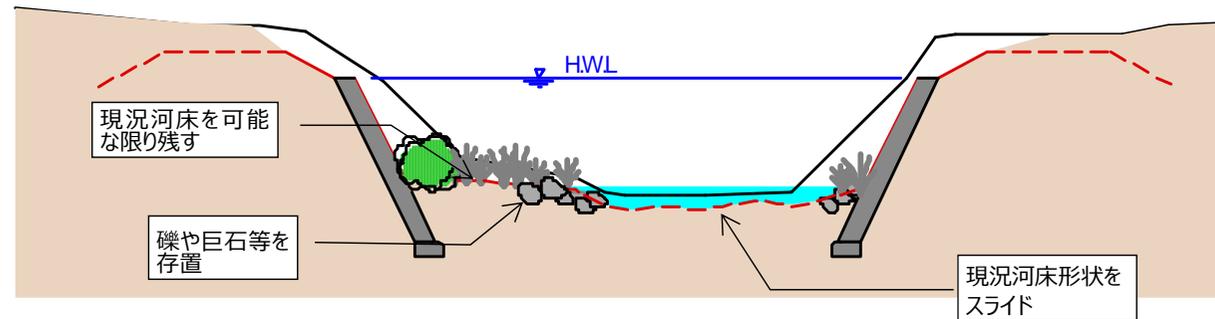
主要工事の概要

工事の内容

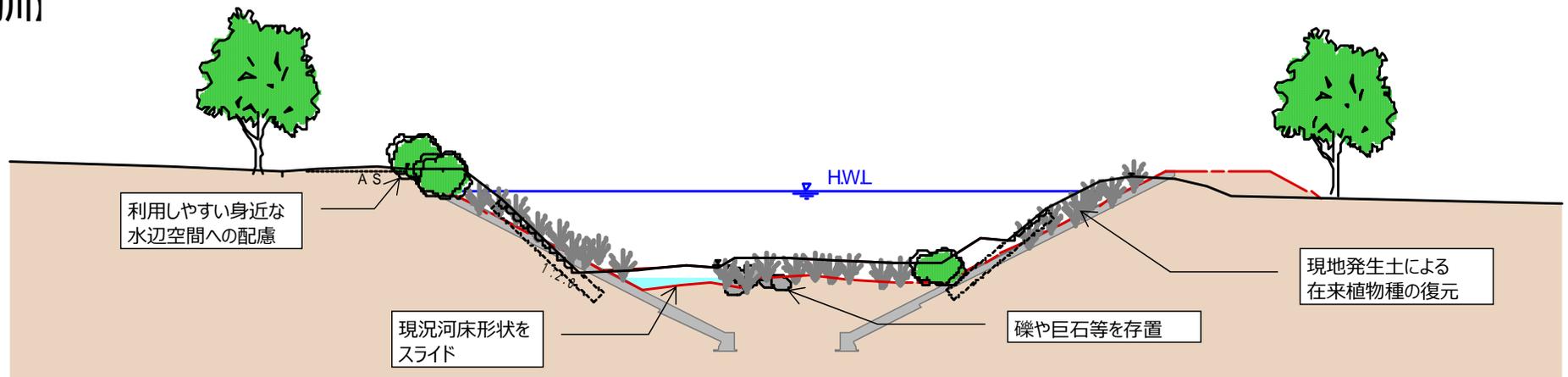
- ✓ 護岸整備済み区間については河床掘削、その他の区間は河道拡幅を基本とした河川整備を行う。
- ✓ 河川整備にあたっては、多様な生態環境が形成されていることを踏まえ、現況の河床・水際を尊重し、瀬・淵等良好な自然環境の保全や水生生物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出に配慮するとともに、河川上下流、海及び河川周辺、河川内の水域と陸域などの連続性を確保する。
- ✓ 河川環境は今後も変化していくため、適時に調査検討を行いながら河川整備を実施する。

【庵原川】

現況河床を可能な限り残し、掘削箇所は現況河床をスライドさせる形状として礫や巨石等を存置し、瀬・淵等良好な自然環境、生物の生息環境を保全する。



【山切川】



4. 河川整備の実施に関する事項

【参考；JR庵原川橋梁の改修について】

- ✓ JR庵原川橋梁は、改築する。
- ✓ 改修方式については、活線方式、別線方式、仮線方式の中から、最適な改修方式を選定する。

	案 1：活線方式	案 2：別線方式	案 3：仮線方式
概要	列車を走行させたまま現在の線の線路下で工事を行う施工方法である。	現在線とは別のルートに新設の線路を敷設する。両端部を現在線に取り付け（線路切換え）現在線路を閉鎖する。	線路ルートは変更せず、工事期間中のみ現在線から離れた部分に仮線を設け、線路切換後現在位置に橋梁を施工する。
概要図			
長所	線路の切り替えが不要となり、 用地取得が他の2案より少ない。	本体橋梁の施工がしやすい。	線路の線形が、工事中は悪くなるが、完成後は、現在の線形と変わらない。
短所	工事中、 現状の列車運行ダイヤの確保が難しい。	切換後の線路の平面線形が悪くなる。（曲線が3か所追加される。） 別線の用地確保が必要となる。	仮線の用地確保が必要となる。

4. 河川整備の実施に関する事項

【河川の維持の目的、種類及び施行の場所】

河川の維持の目的

- 治水機能の確保のほか、河川の持つ多面的な機能が十分に発揮できるよう、地域住民や関係機関などと協働して取り組む。

河川の維持の種類

《堤防及び護岸等の維持管理》

- 定期的又は出水後及び地震発生後の巡視により、異常が認められた場合には迅速かつ適切な対策、復旧に努める。
- 築堤区間については、河川パトロールや巡視を通して洪水に対して常に一定の機能が保たれるよう注視する。

《河道内堆積土砂及び植生等の維持管理》

- 堆積土砂の排除や河道内植物の除去にあたっては、現状のみお筋を残し河川環境に配慮しながら除去するなど、適切に対応する。
- 河川における除草等については、リバーフレンドシップ制度を活用するなど、地域主導の維持管理に繋がるように努める。

《水量・水質の監視等》

- 河川水質の維持・向上のために、下水道の普及や汚濁の防止に関する啓発活動などについて関係機関と連携して取り組む。
- 油の流出等の水質事故が発生した場合には、河川の適正な水利用と流水の正常な機能の維持に努める。
- 河川における流況等の把握に努め、治水、利水、環境の調和した適正な河川利用を図る。

《河川環境の整備と保全》

- 流域の歴史・文化・風土、豊かな自然環境について関係者が共通の認識を持ち、貴重種への配慮など、地域の個性に応じた河川環境を保全し、河川の上下流及び周辺地域との連続性の維持・創出に努める。

4. 河川整備の実施に関する事項

【その他の河川整備を総合的に行うために必要な事項】

総合的な被害軽減対策

- 計画規模を上回る洪水や、急激な増水、整備途上段階での施設能力以上の出水及び大規模地震による津波が発生した場合においても、人命の安全確保と被害の最小化が図られるよう、関係機関や地域住民などと連携した被害軽減方策、災害時要援護者対策、防災避難体制の強化に努める。
- 流域住民に対して水位、雨量などの情報を公表している静岡県ホームページのサイポスレーダーの周知を図る。
- 洪水ハザードマップの活用や警戒避難体制及び水防体制の整備、防災訓練の実施等について、静岡市や地域住民と連携するとともに、雨量計・水位計の情報の充実、システムの高度化に努めていく。
- 局地的豪雨対策として、人命の安全確保を最優先とした緊急時の避難方法や危険性の周知等を、関係機関と連携しながら検討していく。

サイポスレーダー周知への取組



出典；静岡県

情報提供、防災訓練の状況



出典；静岡市HP



4. 河川整備の実施に関する事項

【その他の河川整備を総合的に行うために必要な事項】

関係機関との連携

- 流域管理の観点から、適正な土地利用への誘導や森林の適正な管理、土砂災害対策等を関係機関に働きかけ、流出量の増大、流木や流出土砂に起因する水害の防止に努める。

流域における取組への支援等

- 流域で育まれてきた歴史や文化を後世に引き継いでいくため、庵原川流域における自然環境の特徴、水害リスクや特性並びに特色ある歴史・文化などに関する情報を幅広く提供し、地域住民の河川に対する意識向上を図る。
- 主体的な住民活動が流域全体に広がるよう、リバーフレンドシップ制度などを活用しながら、地域での取組を積極的に支援、協力して、住民の自発的な川づくりへの参画を促す。
- 行政、地域住民、地元団体などが交流し、情報の共有や意見の交換が図られるよう、対話型の川づくりに努め、地域防災力の向上や良好な地域のネットワーク、コミュニティの強化を図る。

幅広い情報の提供



地域での取組の支援-川の学校やまきり（出前講座）

